

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-5

部門名：
校内研修プログラム開発・実践部門

エントリー名：
山梨県立かえで支援学校

活動名：
かえでわくわく研究
教師の専門性を向上、担保する取組

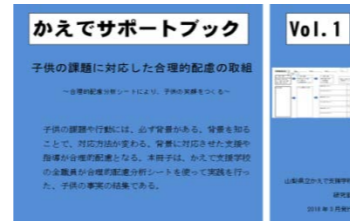
解決すべき課題：専門性を向上させるだけでなく、それをどう維持、継承（担保）するかが課題となる。

①山梨県における特別支援教育や特別支援学校を取り巻く背景に目を向けると、「2019年度山梨県学校教育指導重点」、「新やまなし教育振興プラン」、「やまなし特別支援教育推進プラン」では、「専門性の向上」や「特別支援教育の充実」が明記されている。さらに、「やまなし障害者プラン2018」では、具体的な目標に、「教育環境の整備」、「教師の専門性と指導力の向上」を挙げている。このことから「専門性や指導力の向上」は、特別支援教育に携わる教職員に求められる基本的かつ重要な課題であると考えられる。
 ②専門性の向上とともに、それを担保する仕組みづくりも大切である。多様化する実態に対応するために、教職員には専門性が求められる。100名以上の教職員が在籍する本校では、特に必要な要件である。教職員歴に差があっても、一定の知識・技能を有し、児童生徒に教育活動を提供しなければならない。

目標・方針：コンセプトは、「明日の授業や子供へのかかわり方が変わる楽しい研究」である。

- ①教材のアイデアを共有することで専門性の向上を図る。認められる経験を通して自己肯定感を高める。
- ②書籍の情報を共有したり、発信したりすることで専門性の向上を図る。読む機会、きっかけをつくる。
- ③指導力、専門性の向上・担保を目指す。
- ④教師の負担の軽減を目指す。

活動内容：キーワードは「わくわく」。やらされる研究ではなく、やりたくなる研究。



- ①教材教具・書籍展 & アイデア大賞【写真1、2】
- ②かえでの教材 & 教材バンク【写真3】
- ③校内講師研修会 & 座談会 & わくわく通信【写真4】
- ④かえでサポートブック【図1】表紙は右写真

活動の成果：アンケートを取り、数値化することで専門性を評価。どの教員も専門性の向上を実感。

- ①校内研究による指導力や専門性の向上について
集計結果を図2に示す。どの学部も「そう思う・ややそう思う」と答えた肯定的評価の割合がどの項目でも90%を越えた。
- ②指導力や専門性が向上したと思う項目
集計結果を図3に示す。どの学部も子供理解（実態把握）の項目が高く、次いで障害特性の理解であった。
- ③国語・算数（数学）の専門性について向上したと思われる項目
集計結果を図4に示す。個別の授業である国語・算数（数学）を取り上げて研究を行った。どの学部でも、「実態把握」の項目が高かった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：上記活動内容の①～④に対応。全員参画の研究。

- ①各学部で自作教材教具を出品してもらい、展示した後、全職員で投票を行う。大賞、準大賞には賞状と副賞授与。教師も認められる経験を通して、自己肯定感を高められる。
- ②自作教材を共有し、活用する仕組みをつくり、専門性の担保を図った。
- ③校内講師による月一回の研修会・座談会を開催。通信にて回覧することで学びが深まった。
- ④ABA理論に基づく課題の背景、効果のあった指導のシートをまとめた冊子を2冊作成。指導のヒントとなる。

<写真、図表添付欄>

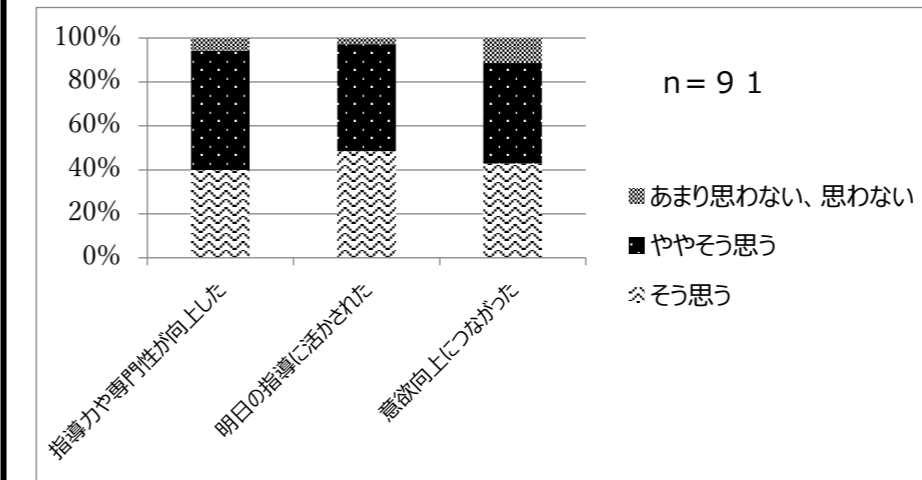


図2

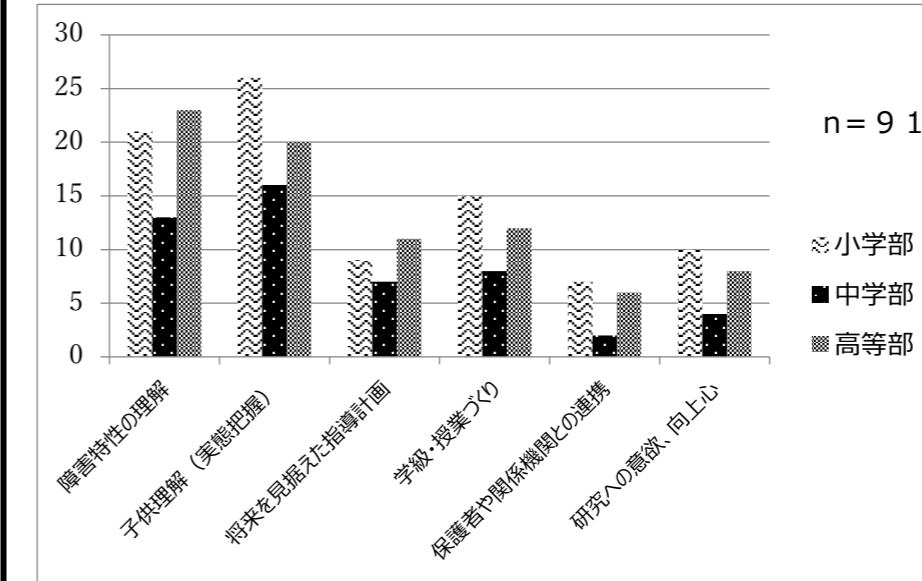


図3

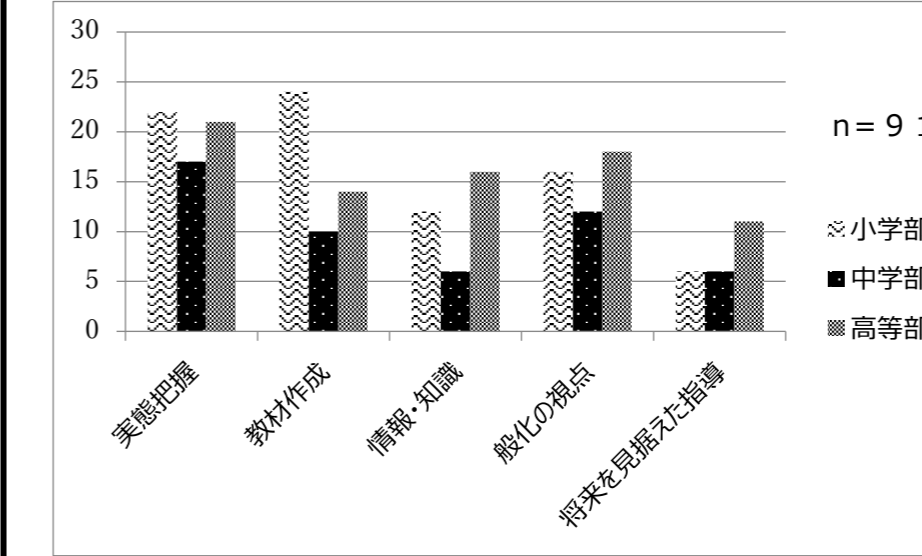


図4



写真1



写真2

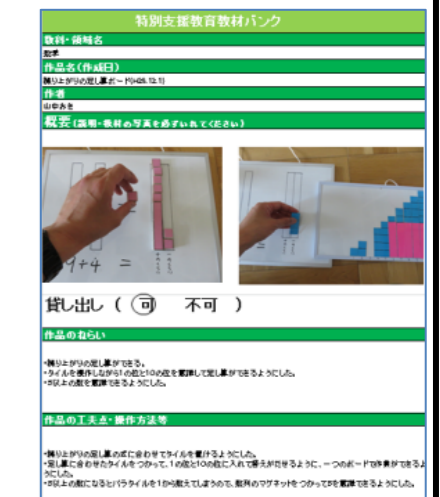


写真3

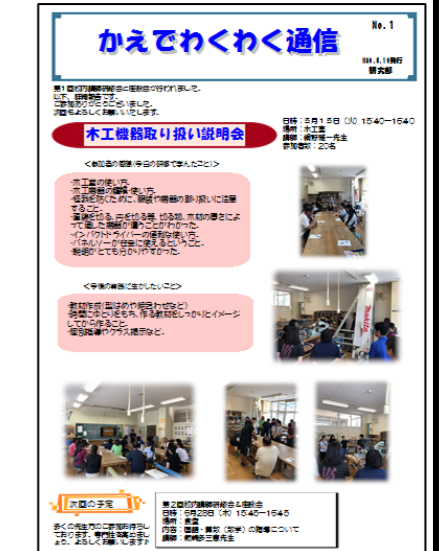


写真4

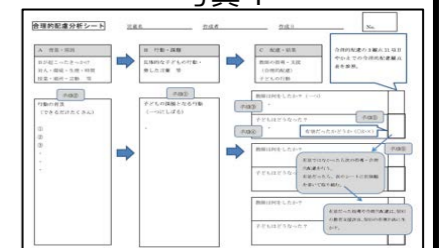


図1